

030

体験重視型アプローチによる 住民を巻き込む地域防災活動の推進

#地域防災力

取組主体		
伴学区自主防災会連合会		
組織数	想定災害	実施地域
伴学区町内会・自治会13組織	豪雨等	広島県

町内会ごとの災害リスクや特徴等、地域の実情を踏まえた防災マップの作成やイベント開催、自主避難所の整備等を通じて住民を巻き込み、楽しみながら地域防災を実施している。

1 取組の概要

- 伴学区が所在する広島県広島市安佐南区は、広島市の中心市街地の北部に位置している。区域の多くが山間部であるが、広島市郊外のベッドタウンとして宅地開発が行われてきた地域である。本事例では、伴学区自主防災会連合会を中心とした地域防災の取組について取り上げる。
- 伴学区自主防災会連合会では、同じ学区内であっても、それぞれ独自に地域の実情を踏まえた防災活動を実践することを目指し、「ガラバゴス防災」を理念に掲げている。これは、地域ごとの地形や災害リスク、住民構成等の特性を踏まえ、画一的な防災ではなく、地域の実情に応じた防災活動を行うという考え方である。具体的には、下記のような取組をしている。



防災かまどベンチを活用した
防災まつりの様子

- ▶ わがまち防災マップの作成・配付：全町内会・自治会で防災マップを作成し、全戸配付を実施している。土砂災害のリスクが高い箇所や、災害発生時の避難経路等を明示している。避難情報の更新や、イエローゾーン・レッドゾーンの更新に伴うバージョンアップを継続している。
 - ▶ 体験型の啓発活動：防災まつりや避難所での間仕切り組み立て体験、学校と連携した防災体験学習等、楽しみながら防災について学ぶことができる取組を実施している。2024年から実施している防災まつり（伴中央町内会）には、地域に住む外国人技能実習生や町内会に所属していない人等、毎回100人超が参加している。
 - ▶ 自主避難所の整備：市が指定する避難場所までの道のりにイエローゾーン・レッドゾーンがあり、災害発生時に避難できなくなる危険性を考慮し、6か所に自主避難所を設置している。伴学区と各施設管理者で協定を締結しており、災害発生時には町内会・自治会が主体的に開設・運営を行うこととなっている。なお、自主避難所は災害種別に応じた利用を想定しており、土砂災害の危険がある場合には利用できない施設もある。
- 防災活動は、広島市の防災土養成講座で育成された約50人の防災士が、地域防災リーダーとして中心となって進めており、学区内の各町内会・自治会に数名ずつ防災士が在籍している状況を維持している。



避難所での間仕切り組み立て体験
の様子

《取組の検討・実施体制》

- 学区内には13の町内会・自治会があり、その上位組織として自主防災会連合会が位置付けられている。
- 外部の団体とは、安佐南区地域起こし推進課、広島市危機管理室を通じて連携を図っている。

2 取組が始まった経緯・背景

- 平成11年6月豪雨災害で高校生が亡くなったことを教訓として、伴学区での防災活動が活性化した。平成26年8月豪雨や平成30年7月豪雨を経験して、防災意識が一層高まり、以降より活動が盛んになった。

- 2021年8月の土石流が発生した大雨で避難指示が約100世帯に出され、消防隊と連携して1軒1軒回り、認知症の独居高齢者の状況や各世帯の個別事情等を踏まえた避難誘導を行った。しかし、実際に避難場所に避難したのは1世帯のみだった。この経験から、従来の一方向の説明では限界があることを痛感し、「楽しくないと人は集まらない」という自主防災会副会長の方針のもと、平時の取組では、参加者を巻き込んでいく手法へと発展させていった。

3 取組による効果・成果

- 防災まつりでは行政と連携した啓発ブースを設け、広島市危機管理室による防災行政無線屋内受信機の無償貸与制度の説明を実施した。利用が広がりにくい制度について住民が具体的に検討するきっかけとなり、その場で高齢者世帯から2件の貸与申請を受け付けた。
- 他地域から地域防災の参考事例として問合せ、視察対応を受けている。さらに、テレビ番組へのパネリストとしての出演、広島市地域防災リーダー交流会や広島市主催の防災セミナーでの取組発表等、外部発信を行っている。

4 周囲の声

- 安佐南区地域起こし推進課からは、「楽しみながら防災意識を高める行事は、他の地域ではなかなか見られず、非常に良い取組だと捉えており、他の地域に対しても伴学区の取組を紹介している」とのコメントを得ている。
- 広島市危機管理室からは、「防災士の数が市内トップクラスに達しており、防災活動が非常に活発である。地域防災に対する支援を効果的に活用しており、行政と地域の連携の好事例と捉えている」との評価を得ている。

5 直面した課題と対応

- 少子高齢化により、防災を含む地域活動の担い手不足が進んでいる。各町内会・自治会に数名ずつ防災士がいるものの、高齢化や役員任期終了後に活動から離れるケースもあり、活動を担う人材の確保が課題となっている。「楽しくないと人は集まらない」という方針のもと、「防災まつり」のように楽しみながら学べる機会を提供し、関心を持つ人を増やす方針で対応している。具体的には、50年続いていた町民運動会を「防災町民運動会」に変更し、防災食、防災リレー、防災借物競争等を組み合わせ、参加者を巻き込みながら防災意識を高める取組を行っている。
- 資金面でも課題があるが、市の補助金や地域の企業から協賛を得ることで解消している。特に、「防災まつり」はお祭りであることから賛同を得やすく、持続可能な体制の構築にもつながっている。

6 今後の展望

- 担い手不足も課題として存在する中、様々な外部団体を巻き込み、互いにwin-winの関係を築いていきたい。
- 地域の防災意識を継続することが今後の重要なテーマだととらえている。災害に関する報道が多い時期は活動が活発になるが、報道が落ち着くと活動も落ち着く傾向にある。「うちがすごい」という姿勢ではなく、謙虚な姿勢で確実に活動を続けていきたい。

担当者の声

災害発生時は、まずは避難することが何よりも重要である。命を守ることを重視した啓発活動を続けていきたい。また、「ガラパゴス防災」の理念のもと、画一的な対応ではなく、各町内の個別の状況に応じた防災を今後も重視していきたい。個人が自分の住む町内の災害リスクを正しく認識し、対応できるような地域にしていきたい。

問合せ先	動画	サイト URL
安佐南区地域起こし推進課 Tel : 082-831-4926 Fax : 082-877-2299 Mail : am-chiiki@city.hiroshima.lg.jp 広島市危機管理室災害予防課 Tel : 082-504-2664 Fax : 082-504-2802 Mail : saigaiyobo@city.hiroshima.lg.jp	—	

《本事例のポイント》

伴学区自主防災会連合会は、各町内の災害リスクや地形をふまえた「ガラパゴス防災」の普及を掲げ、町内会・自治会が主体となって、わがまち防災マップの作成・配付、体験型イベントの開催、自主避難所の設置等の地域防災活動を推進している。地域住民自らがリーダーシップをもって住民を巻き込みながら活動を推進している点が、本事例の特徴である。